

# 医師が求める診療放射線技師について — 診療放射線技師に期待すること —

森田 勝<sup>†</sup> 岡原 継太<sup>1)</sup> 本多 武夫<sup>2)</sup>  
國武 直信<sup>2)</sup> 篠崎 賢治<sup>3)</sup>

第76回国立病院総合医学会  
2022年10月8日 於 熊本

IRYO Vol. 77 No. 6 (420–424) 2023

## 要旨

病院幹部の外科医からみた“医師が求める”診療放射線技師（RT：radiological technologist）について私見を述べる。1）医療の質・安全・経営を考える：確実かつ効率的な診療をめざすと共に、常に医療安全、病院経営をバランスよく考えることは必須である。2）PrideとMotivation：“RTだからできる仕事”にプライドをもつとともに、常に向上心を持ち続けてほしい。そのためには、裏付けとなる基本的な技能を取得するだけでなく、専門性を磨いていただきたい。結果として資格や業績などの“形”を持つことが理想であろう。3）医師との関係：RTは“医師と対等の立場”であり、医師の指示の遂行のみならず、積極的に議論し提案をしてほしい。医師からRTへのタスクシフトはスキルアップととらえる一方、医師側もRTの立場を理解し、不安や不満が生じないように留意することが重要である。そのために病院として学習機会の提供、システム整備、精神的サポートに務める必要がある。4）チーム医療の一員として：他職種との連携をはかりながら、診療のみならず病院経営も含む病院運営にも積極的にかかわるべきであろう。

キーワード 診療放射線技師, チーム医療, 医療の質, 医療安全, タスクシフト

## はじめに

近年、医療環境や患者のニーズは多様化し、高度な診断・治療の提供とともに、患者のQOLを重視したケアを行うことが求められている。そのため、さまざまな職種の医療スタッフが協働し連携することによる“チーム医療”を推進することが重要となっている。とくにがん患者は病気・治療のみでなく、経済面、就労、アピアランスなどさまざまな不安や

悩みをかかえ、医療スタッフ全員で支えることが重要である。

放射線診断と治療に携わる専門職種である診療放射線技師（radiological technologist：RT）の業務も急速に複雑化し専門性が増している。RT相互さらに医師をはじめとした医療スタッフと綿密な連携がより重要となっている。さらに、近年、“働き方改革”が喫緊の課題となり、RT自身の働き方、医師からのタスクシフトにも真剣に向き合い取り組ま

国立病院機構九州がんセンター 消化管外科, 1) 放射線技術部, 2) 放射線治療科, 3) 画像診断科 † 医師  
著者連絡先：森田 勝 国立病院機構九州がんセンター 副院長  
〒811-1395 福岡市南区野多目 3-1-1  
e-mail: morita.masaru.uv@mail.hosp.go.jp  
(2023年2月16日受付 2023年4月14日受理)

What Is an Ideal Radiological Technologist for Clinicians?

Masaru Morita, Keita Okahara<sup>1)</sup>, Takeo Honda<sup>2)</sup>, Naonobu Kunitake<sup>2)</sup> and Kenji Shinozaki<sup>3)</sup>

NHO Kyushu Cancer Center, Department of Gastroenterological Surgery, 1) Department of Radiation Technology, 2)

Department of Radiation Oncology, 3) Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine

(Received Feb. 16, 2023, Accepted Apr. 14, 2023)

Key words : radiological technologist, team medical care, medical care quality, medical safety, task shifting